

被昇天追憶

主任司祭 吉池 好高

連日の猛暑の中、暦は九月に入りました。ただただ、時が過ぎ、季節が移ることをひたすら耐えて待つしかない、そんな夏でした。オリンピックの興奮も、過ぎて行く遠い世界のことのよう、萎えた心とからだを奮い立たせてはくれませんでした。そんな夏の、わずかな現実との接点の中で、今年も聖母の被昇天を教会の皆さんと祝うことが出来ました。まだまだ先の見えない秋の訪れを耐えて待ちながら、聖母の被昇天について思い巡らして行きたいと思います。

聖母マリアの被昇天の祝いは、聖母が生きられた聖母の御生涯に私たちを招いています。聖母マリアは、私たちが受け入れたのと同じ神への信仰に生き、その信仰のうちに、神が約束された救い主イエス・キリストをご自分の中に迎え入れられ、神が御計画されたとおりに、母の愛をもって、ご自分の生涯の全てを御子イエスの生涯に寄り添わされたのです。そして、そのように生きられたこの地上の生涯を終えられたとき、聖母マリアはその信仰によって受け入れた、御子イエス・キリストが招く、神の永遠のいのちの世界へと迎え入れられたのです。

「主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、何と幸いでしょう」というエリザベトの聖母への賛辞は、聖母の被昇天を祝う私たちの聖母への賛辞でもあり、それはまた、聖母の被昇天の祝いの喜びの中で、私たちが聴く、私たちの母である聖母の私たちへの招きのことばでもあります。何故なら、私たちも、聖母のご生涯を通して示された、神を信じる者の道を歩む者たちだからです。

信仰とは、聖母がお告げを受けられた時にそうされたように、私たちの人生の中に神を迎え入れるということです。そのようにして、神によって開かれた新しい人生の中で、私たちも救い主イエス・キリストを私たちの中にお迎えしたのです。私たちの信仰が目指すのは、聖母のご生涯が示しているように、イエスに寄り添って生きることによって、そのイエスに寄り添われて生き、イエスが導いてくださる神のいのちの中に迎えられて行くということです。